

## 『INCHの楽しい仲間たち』 vol.14 その2

## 夏のボーナスの終わりに、九州で温泉旅行をしようの（後編）

鈴木風馬（自然文化誌研究会運営委員）

## 行程

2日目 2023.9.17

内牧温泉→阿蘇山草千里→阿蘇→宮地→豊後竹田→大分→別府

3日目 2023.9.18

別府→鉄輪温泉→地獄めぐり→別府→博多→福岡空港→羽田空港→品川→大宮→岩槻

大分行き普通列車は乗り換え客を乗せ、定刻に豊後竹田駅を発車した。今度は真っ赤な気動車 2 両編成で、クロスシートの半分が埋まるくらいであった。列車は阿蘇外輪山から流れ出る幾つもの谷筋をトンネルでハシゴしつつ大分市へ向けて下る。緒方の手前から大野川が現れ、何度か渡りながら走る。三重町は豊後大野市の中心で、朝夕には区間運転もあり、3 線ある大きな駅であった。犬飼を出るとすぐ大分市に入り、中判田からは立ち客も出始め、大分市の近郊区間となる。大窪氏はお疲れのようで、居眠りをしている。快適な汽車の中で日向ぼっこをしながらとうとうと眠るのが至福だと思う。いったい大学はどこにあるんだと言いたくなる大分大学前駅をすぎると、市街地に入って 15:08、大分駅に着いた。20 分ほど待ち時間があるので、お土産を物色しようとして改札を出る。ピッカピカの高架駅で、駅ビルはショッピングモール「アミュプラザ大分」が入っていて、賑わっていた。駅前広場では屋台が出ていた。別府でも買えるので別府へ向かうことにし、15:27 発亀川行き普通列車で別府へ向かう。3 両編成で、クロスシートだが座席を撤去してあるようだ。西大分を出ると、国道 10 号別大国道と並行して別府湾が広がる。対岸の国東半島もなんとか見えた。私も大窪氏も海とは縁遠いため、注目する。途中水族館が見えたが、駐車場満杯で繁盛しているようだった。



写真 16 大分駅と大分～別府間の車窓（かんたん湾）

写真 17 大陸ラーメンさんと別府温麺

東別府 から別府市に入り、15:39 に近代的な高架の別府駅に着いた。今日の宿は駅前の「別府シーウェーブホテル」である。チェックインして荷物を置き、買い物に出かける。駅の土産物屋を覗いて買うものの目星をつけ、別大国道沿いのゆめタウンへ向かう。旅行に行った時はこういう地元の普段使いのスーパーマーケットで地域限定の商品を探すのが面白いのだ。九州の場合は、醤油が 1 番特徴的なので、大窪氏も私も醤油を購入した。お土産向けの高級品とは異なり、地元の普段使い向けなので値段も安くおすすめである。買い出しの後、商店街のラーメン店「大陸ラーメン」さんで温麺をいただく。大窪氏は冷麺を注文した。別府は冷麺も有名らしく、盛岡とはまた違う蕎麦のような麺の冷麺は美味しかった。

大窪氏は先にホテルに戻り、駅前の電器店に入る。今朝バンドが外れてしまった時計を買い替えるため探したのだが、取り扱いがなく断念。駅高架下の時計店に行くと、ほぼ同じものが売っていたので購入。現場でも腕時計があると便利なので、いつも激安の時計を壊れるまで使い込むのだが、今回も買ってよかった。17 時半頃にホテルに戻り、夕飯に出かける前に風呂を浴びる。別府は全市内どこでも水脈さえ当てれば温泉という立地なので、もちろん温泉である。熱めの湯で長湯はせずさっと浴びて部屋に戻る。19 時過ぎにホテルを出て、鴨吸いが名物の居酒屋「チョロ松」さんへ。運良く席が空いていて、すんなり入ることができた。ここでは紅茶梅酒やレモンティーリキュールのお酒と合わせてかんぱちのりゅうきゅう、地鶏のたたき、鴨吸い、豚天をいただいた。鴨吸いは出汁が最高に美味く、りゅうきゅうも地鶏も豚天もお酒が進む。軽い味わいのレモンティーリキュ

ールと紅茶の風味を感じる梅酒がとてもおいしかった。

20時過ぎに退店し、次の店を探して彷徨うがどこも満席であった。21時頃に2軒目として「夢倉庫」さんに入店。ここでは別府名物のとり天と再びりゅうきゅうを頼み、カボスのジュースと酎ハイで乾杯。ここで大窪氏が「仕事をその日にしたとしても休日だと思えた時休日」などと宣うので「休日には仕事はしてはいかん」と議論した。22時前にホテルに戻り、大窪氏を置いて隣の「別府ステーションホテル」の風呂に入りに行く。グループホテルの風呂は入り放題とのことなので、ありがたい。こちらもかなり熱めの風呂で、泉質は少し違うようだ。22時半頃に帰り、荷物を整理して就寝。

### 3日目 2023.9.18

別府駅西口 9:15→(亀の井バス7系統別府リハビリセンター行き)→9:31 鉄輪→地獄温泉ミュージアム→海地獄→鬼石坊主地獄→ひょうたん温泉→鉄輪 14:13→(亀の井バス7系統別府駅西口行き)→14:29 別府駅西口→別府駅 14:53→(日豊本線特急ソニック38号博多行き)→16:49 博多 16:58→(福岡市地下鉄空港線福岡空港行き)→17:03 福岡空港駅→福岡空港 19:15→(ANA268 便羽田空港行き)→21:00 羽田空港→羽田空港駅(京急)21:30→(京急空港線快特印幡日本医大行き)→21:46 品川 21:50→(JR 上野東京ライン高崎行き)→22:30 大宮 22:40→(東武野田線柏行)→22:51 岩槻

夜中に何度か目が覚めたが、6時頃に日が昇ると完全に覚醒した。7時過ぎに朝風呂に行き、7時50分頃から朝食会場へ。和洋バイキング形式で、鳥飯やぎょろっけなど大分産のものを使った料理もあった。8時半頃に部屋に戻り、出発までのんびりする。9時頃に部屋を出て、チェックアウトし駅へ向かう。コインロッカーに荷物を預けて、西口③のバス乗り場から亀の井バスのリハビリセンター行きに乗る。9:15に発車し、市街地を走る。別府は坂の街らしく、山側の温泉まで登り坂が続く。「原」はばる、「火売町」はほのめちょうなど、読み方を間違えそうな停留所も多い。9:31、鉄輪温泉に着いた。まずは地獄温泉ミュージアムに向かう。2022年12月にできたばかりの博物館で、別府に降った雨が温泉になるまでを学べる体験型の博物館であった。1100円と入場料は高めだが、ピカピカで凝っていたので納得である。

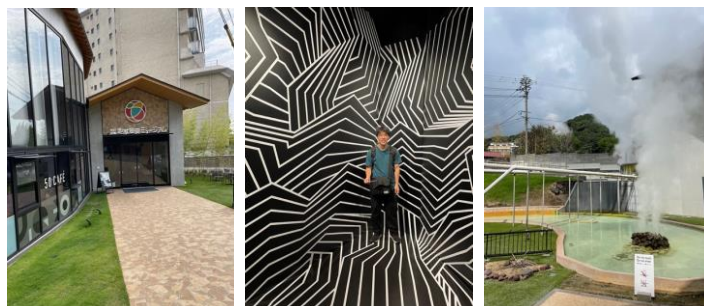


写真19 地獄温泉ミュージアムと中で迷った大窪氏、裏庭の地獄

50分ほどで辞して海地獄へ向け坂を登る。観光客が集まる時間帯で、石畳の商店街は賑わっていた。海地獄は青い色の池から噴煙が立ち上る地獄で、実に美しかった。温泉たまごのカゴも洗めてあった。売店の2階が展示になっていて、ここでも地獄地帯のでき方を知ることができた。続いて隣の鬼石坊主地獄へ。ここは温泉施設と併設のようで受付の脇に温泉の入り口があった。灰色の池から泥が湧き出していて、美しい円を描いていた。温度は98度とあった。実際中は暑く、湿度も高いので過酷な環境が地獄と準えられるのも納得である。



写真20 海地獄と鬼石坊主地獄

石畳を下って、かまど地獄へ向かう。ここは小さいが6個の地獄がまとまっていて、それぞれ色も温度も湧き方も湯なのか泥なのかも違うという面白いところであった。こんなにそばにあってかなり違う色の湧き方をされていて、面白かった。



写真21 かまど地獄

写真22 ひょうたん温泉にて

11:30 になったが、朝食を食べすぎてお腹が空かないので温泉に入ることにし、坂を下ってひょうたん温泉に入る。940円だが広く、ぬる湯から熱めの湯までと、滝湯、むし湯、露天も揃っていた。ホテルの温泉とは泉質が異なり、こちらは塩化物泉、ホテルは重曹泉とのこと。大窪氏も長湯するくらいにはいい風呂であった。上がってから日田梨のスムージーをいただき、昼食の代わりにする。さっぱりした日田梨と氷が冷たく風呂上がりには最高であった。

13:20 頃に出て、そばの「地獄原・ひょうたん温泉前」から 13:31 の大分交通のバスで別府駅へ戻る。少し遅れて 14:00 頃に駅に到着。荷物を受け取り、切符を受け取り、お土産を購入して 14:19 発特急ソニック 36 号博多行きに乗り込む。885 系「白いソニック」6 両編成で、指定席は満席とのこと。別府からの自由席はまだまだ余裕があったので着席。すぐに検札が来て、自由席だが座席を確認していた。杵築、宇佐、柳ヶ浦、中津とそこそこの乗車でほぼ席が埋まった。国東半島の付け根はカーブが多いので、振り子式車両の性能を遺憾なく発揮し最高速度 120km/h で駆け抜けてゆく。山国川を渡って福岡県に入ると車掌さんが 2 人に増え、各々確認して回っていた。小倉駅では進行方向が変わり、座席の向きを変えて座り直す。客も入れ替わり、検札がまた忙しく動く。我々も再びの検札を受けた。車内で ANA から通知が来ており、機材到着遅れのため 20 分遅れるとのこと。余裕ができたなと思いながら鹿児島本線を快走して 16:28、博多駅に到着。



写真23 別府駅にて 乗車したソニック（左）と停車していたゆふいんの森（右）



写真24 博多ラーメン

博多駅では福さ屋へ行き、明太子を購入。駅ビルのラーメン店「元祖博多だるま」さんで夕食に豚骨ラーメンをいただく。九州最後の飯はやはりこれが鉄板だろう。バリカタで頼んだが正解で、歯応えある麺がスープとからみ旨い。回転も早くていい店であった。

地下鉄のホームへ移動し、17:35 発福岡空港行きで空港へ向かう。空港には 17:40 に到着し、オンラインチェックインを試してみることにする。案内板を見るとなんと乗る予定の 19:15 発 ANA268 便羽田行きは 45 分遅れの 20 時ちょうど発予定に変わっていた。することもないので保安検査をくぐり、搭乗口で待つ。思わぬ待ちぼうけで暇になってしまい、落ち着かない。大窪氏は悠々とゲームをしているが、私はお散歩に出かける。搭乗口 12 番から 1 番まで歩き、戻ってきてもお暇である。19:15 頃ようやく折り返しの便が到着し、降機。19:40 から搭乗案内とのことで、搭乗口には列ができていたが、我々の搭乗順は最後の方なので、椅子から離れず待つ。19:50 を過ぎても始まらないが、満席の飛行機の客を 10 分で捌き切れるのだろうか？20 時を過ぎてようやく搭乗開始となり、列に並ぶ。この便も満席のようだ。これではさらに 20 分ほど遅れるのは否めないだろうなと思いつつ、22 時には羽田に着くだろうと予想して搭乗する。気楽な大窪氏が羨ましい。機種は行きと同じ B787 らしいが、情報画面はなく、背面にはテーブルのみであった。20:15、扉が閉まったとの放送があり、ようやく動き出しそうだ。20:18、飛行機は動き出した。1 時間 3 分遅れての出発となった。偏西風がどのくらい巻いてくれるか楽しみだ。しばらくエプロンで待機したのに、滑走路へ移動する。20:30、離陸するとの放送が流れ、エンジンがフルパワーとなり加速開始、離陸した。この離陸の瞬間の浮き上がる感覚はやはりあまり好ましいものではない。新幹線や特急も好んで乗るわけではないが、飛行機や高速バスよりはマシである。やはり私は定期的に外気が直接入ってこないのがダメらしい。宮脇俊三氏の「インド鉄道紀行」の続きを読んでいると、21:20 頃から高度を下げ始めた。放送によると、羽田は混雑しているらしく、ゲートへのご案内は 22:05 とのこと。大宮からの野田線最終に間に合うかが心配だが、迎えは頼んであるのでなんとかなるだろう。企画者としては、大窪氏の帰宅もケアしなければならない。機内 Wi-Fi に接続して時刻表を調べ、連絡しておく。家に帰るまでが旅行である。そういう私は明日新潟に帰るのだが、21:40 頃になり、シートベルト着用サインがついた。順調に高度を下げていようだが、外が暗いのと通路側の席なのでわからない。インド鉄道紀行を読み終え、鞆にしまっただけ身構える。着陸の瞬間もあまり好きではないし、大きく揺れるのがわかっているので、外の景色で降りる瞬間がわかると良いのだが、今回はそうもいかない。だが、21:53 になって外に東京の夜景が見え、まもなく地上であることがわかった。どの滑走路に降りるかでターミナルまでの距離が変わるので、そこがポイントである。D 滑走路に降りると 20 分くらいは走らねばならない。21:56、羽田空港に着陸した。揺れは少なく滑らかなランディングであった。どうやら B 滑走路に降りたらしく、ターミナルまではすぐに行ってくれそうだ。22:07、ゲートが接続され降機。次の京急は 22:17 の★ 急行泉岳寺行きである。走れば間に合うと判断し、ダッシュで京急のホームへ向かう。発車 2 分前に改札を抜け、なんとか飛び乗った。20 分ほど走り、22:39 に品川着。大窪氏と品川で別れ、次なる旅を誓い合い見送る。品川からは JR で大宮へ、野田線の最終 2 本前に乗り、眠気に耐えながら 0:13 に岩槻に到着。実家泊。

翌日、新幹線で新潟に戻り、旅は終わった。

おわりに

今回は大窪氏のリクエストに合わせ、阿蘇と別府という九州の大観光地を周遊する旅を企画した。費用的には 10~12 万円ほどかかった贅沢な旅になってしまったが、いつもの格安鈍行旅行とはまた違う旅を楽しめた。大窪氏も満足いただいたようで、旅行代理店兼ガイド兼運転手としての冥利に尽きる。次回の旅はどこへ行こうか？

(事務局より)

鈴木風馬さんは、赤ん坊のころから自然文化誌研究会に関り、参加者~学生スタッフを経て、現在は社会人。冒険学校ではスタッフの送迎をはじめとした裏方の仕事を務め、現在の住まいである新潟県から望遠鏡を担いで小菅入りしています。

今回「冒険学校まふゆのキャンプ」では、初の村長を務めることになりました。